

西安の歴史・文化と介護を訪ねて

達生堂グループ視察研修

達生堂グループは11月2日から6日まで、中国人技能実習生を受け入れてきた中国・西安市を訪問し、中国の介護と歴史・文化などを視察・研修しました。一行は27人で、グループ職員のほか、結城市国際交流協会から2人が参加しました。

一行の訪問した西安市碑林区第三愛心看護院は、西安の住宅街に位置し、医療と介護を行う日本の介護老人保健施設のような役割を果たしています。2004年から準備を進め、政府の施設を譲り受けて2016年にオープン。現在、満床に近い176人が入所し、認知症や看取りにも対応しているといえます。西安市は人口約1000万人で、まだまだこうした施設が必要とされているといえます。王涛理事長は「日本の介護を勉強し、日本との交流も深めていきたい」と話し、城西病院の白石裕比湖院長と相互協力に対する提携書の調印を行いました。

西安市はシルクロードの出発点として古くから栄えた街で、かつては長安と呼ばれ、4000年にわたる歴史を有しているといえます。

西安市の中心部は、周囲約13キロにわたる城壁に囲まれ、中心部は碁盤の目のように整備されています。紀元前221年に秦の始皇帝が中国を統一。その墓となる始皇帝陵が西安で発見。さらに1974年に約8000体の兵士や馬をかたどった土偶が出土した始皇帝兵馬俑が発見されました。視察は、この兵馬俑のほか、陝西省歴史博物館、空海ゆかりの青龍寺などを訪問し、西安の歴史を知るとともに、古くからの日本とのつながりなども学びました。

西安市は、歴史を守るとともに、近代的なビルも立ち並び、一行は歴史と先進的な文化が融合したまちを肌で感じていました。

2019年11月8日



秦の始皇帝兵馬俑



陝西省歴史博物館



シルクロードを描く夢駝鈴



街の中央で踊る人たち。訪問団も飛び入り参加



西安市碑林区第三愛心看護院



西安を囲む城壁の夜景

